

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	55	筋力低下・突発的な動きや目が届かないところでの転倒・転落などの事故が発生する可能性がある。	転倒・転落事故を起こさないようにする。 筋力の維持に努められるようなレクリエーションの実施。	利用者の動きを把握し、瞬時に対応できるようにする。 利用者一人ひとりのレベルに合わせたプログラムを考え、楽しみを持ちながら、手足を動かすことで機能回復・維持を図れるように取り組む。	12ヶ月
2	21	利用者同士の関係への支援が対応不十分である。	利用者間のトラブルを無くし、個人個人が孤立しないようにして行く。	利用者間のトラブルが発生しないよう未然に防ぎ、職員が目配り・気配り・心配りを決め細やかに行う。	12ヶ月
3	41	食事のむせや咳き込みなどがあつたり、嗜好が激しかったりと栄養の偏りがある。	むせの防止のために口腔内や口腔周囲筋の筋力維持を図る。 栄養が偏らないように工夫し食事のメニューをバラエティ豊かにしていく。	食前の口腔体操を実施する。 現在も調理方法を工夫しているが、より一層工夫し、栄養バランスがしっかり取れるようにする。	12ヶ月
4	49	日常生活の中での刺激が少なく早期に認知症の進行の可能性がある。	レクリエーション等を充実し、外出支援を積極的に行き、認知機能の低下の進行を予防する。	季節を肌で感じてもらえるよう、旬な物をみてもらったり、施設外の方々とふれあいができるようにして行く。 生活リズムが整えられるように太陽の日差しに当れる時間(散歩など)を作る。 イベントへの積極的な参加・外出などレクリエーションを支援していく。	12ヶ月
5	23	一人ひとりの思いや意向の把握が難しい。	一人ひとりのニーズをきちんと把握し、穏やかな生活を送っていただく。	日々の関わりの中で言葉や表情・態度などから本人の真意を察するように努め、思いや意向に添った介護をして行く。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。